

重要文化財大石平遺跡出土品保存修理事業（令和6年度）

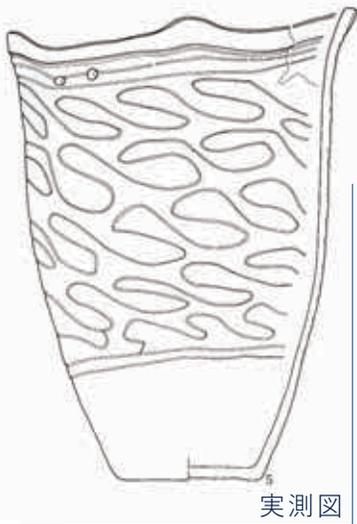
大石平遺跡は六ヶ所村にあり、昭和58～60年に発掘調査が行われました。縄文時代後期前半の住居跡や土坑、配石遺構などとともに、多数の土器・石器、土製品・石製品が見つかり、祭祀や儀礼に係わる特殊なものが豊富に含まれていました。これらの遺物は、縄文後期の祭祀や儀礼を窺える良好な資料群であることから、平成7年に198点が重文に指定されています。

発掘後に復元してから40年以上経過しており、当時の接着剤が劣化し接合部分が脆弱になっているものや復元の際に土器の破片が無い部分を石膏で埋め、土器に近い色で彩色していましたが、退色しているものがあることから、安全な状況で展示・保管するため、令和2年度から国庫補助事業を活用して保存修理を行っています。

修理は、表面の汚れや最初に組み立てた際の接着剤等を洗浄しながら解体します。解体した破片をアクリル樹脂で強化し、ゆがみを補正しながら組み立て直します。破片がない部分はエポキシ樹脂を充填し、充填部分は周囲の土器と区別出来るように色調を変えて彩色をします。

令和6年度は昭和60年の調査で土坑から出土した深鉢形土器3点を修理しました。

本事業は、文化庁国宝重要文化財等保存・活用事業国庫補助金の交付を受けて実施しています。



実測図

●深鉢形土器 1

口径（最大径）24.8cm 高さ32.7cm 底径10.0cm
331号土坑（上面154×115cm底面102×84cm深さ84cm）

この土器は、口縁と胴部の破片が一部欠損していますが、残りが良く本来の土器の形状がわかります。口縁は波状で4つの突起があり、胴部には連続した波状の文様が5段描かれています。外面の大半は黒く変色しています。さらに土器のヒビ割れを直した痕跡もあります。復元時のセメダイン・欠損部を埋めた石膏・彩色の劣化、石膏や着色時の汚れが目立っていました。

図掲載：青森県埋蔵文化財調査報告書第103集
『大石平遺跡Ⅲ』第2分冊327p図259-5



補修孔

ヒビの両側に穴を空け、穴に紐を通し紐を結んで、ヒビが広がらないようにしていた。



修理前



土器内面：底の周りが黒い

修理後



45度
右へ



90度
右へ



●深鉢形土器10 口径(最大径)25.8cm 高さ36.5cm 底径11.0cm

口縁に7つの波状突起があり、表面は沈線で楕円や渦巻きなどの曲線で文様が描かれ、文様帯の上下を直線で区画しています。表面はさらに広範囲に黒く変色しています。復元時の接着剤の劣化により隙間が広がり脆弱になってきました。内面には復元時のテープ痕や着色時の汚れがありました。

図掲載：青森県埋蔵文化財調査報告書第103集『大石平遺跡Ⅲ』第1分冊453p図271-112



修理前



修理後



上) 土器内面：真っ黒に変色。炭化物も付着している。

左) 曲線で描かれた文様は、人のようにもみえる

●深鉢形土器11 口径(最大径)30.0cm 高さ40.5cm 底径13.0cm

この土器は、下半部に破片の欠損がありますが、片側に傾いた状態で直立しています。口縁は波状で5つの突起があり、波状突起の直下には粘土紐で装飾が施されています。文様のある範囲は狭く、沈線や粘土を貼り付けて楕円や円形文様が描かれています。外面の大半は黒く変色しています。接着剤の劣化で土器片の接合面に隙間が多く、石膏を着色した際の色の退化が目立っていました。

図掲載：青森県埋蔵文化財調査報告書第103集『大石平遺跡Ⅲ』第1分冊453p図271-111



修理前

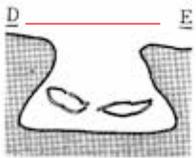


修理後

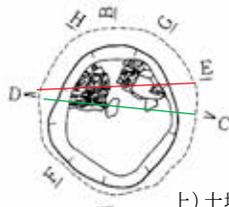


上) 土器内面：底から上部にかけて、斑に黒く変色している。

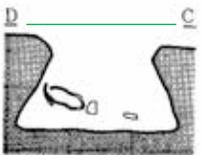
55号土坑(上面直径100cm 底面直径130cm 深さ75cm)



上下) 土坑断面図



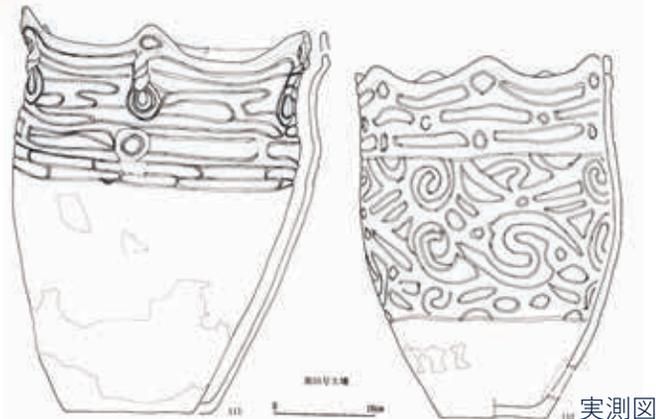
上) 土坑平面図
下) 土器拡大



深鉢形土器10・11の出土状況図



深鉢10・11



実測図

*深鉢10・11はひとつの土坑から出土している。土坑の形状からフラスコ状土坑と呼ばれ、貯蔵穴に使用されたものと考えられる。